

花き栽培における下水汚泥由来肥料の効果確認

農場の概要

- ・地域 深谷市大谷
- ・対象作物 コギク

導入した資材等

- ・下水汚泥由来肥料（荒川クマムシくん888）

導入の目的・ねらい

肥料原料価格の高騰により、未利用資源として汚泥肥料に注目が集まっており、下水汚泥肥料を利用する際の、経営上、栽培上の利点や課題を把握するため、花き栽培を実証した。

試験概要

- ・面積 5a 慣行区：2.5a 汚泥肥料区：2.5a
- ・施用量
試験区：荒川クマムシくん888(N:P:K = 8:8:8) 5.4kg/2.5a
対象区：BM化成1号 (N:P:K = 13:10:12) 3.3kg/2.5a
- ・主な管理作業
施肥・耕うん 6月18日
定植 6月18日
ピンチ 6月26日
追肥 7月4日



結果概要

栽培については試験概要のとおり。汚泥肥料区、慣行区はともに2.5 aであり、元肥は窒素量を同量とするために、汚泥肥料区は「荒川クマムシくん888」を5.4 kg、慣行区は「BM化成1号」を3.3 kg施用した。追肥は元肥と同種同量を側条施用した。すべての栽培行程、条件は両試験区ともに同じであった。

調査結果は図、表のとおり。草丈は生育期間を通して生育に差は見られず、重量は汚泥肥料区が高い値を示した。土壌分析は栽培前後それぞれで数値の差は見られなかった。生産者からは、両試験区ともに品質に差は見られず、収穫時期も変わらないと評価をいただいた。

生産者コメント

窒素分が高すぎず、ちょうどよい。元肥、追肥ともに使用でき、花きなら栽培過程について消費者の興味は少ないので気にならない。ただし、汚泥肥料の使用をPRするにはイメージが良くない思う。

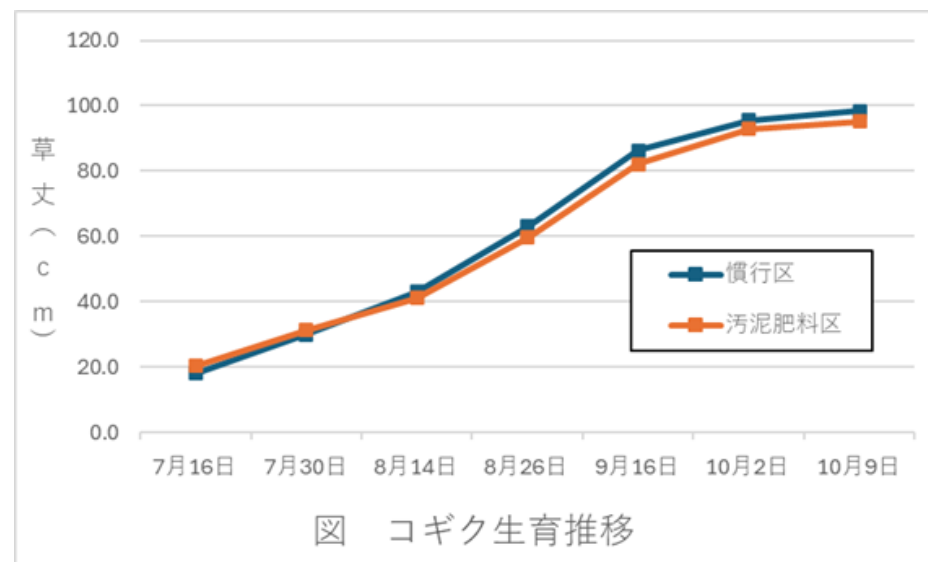


図 コギク生育推移

表 収穫調査結果

	草丈 cm	重量 g
慣行区	98.3	104.65
汚泥肥料区	95.1	127.68

問合せ先

大里農林振興センター

電話 048-526-2210